

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
伝承美学		トータルビューティ学科／1年	2024／通年	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
50分	30回	2単位（30時間）	必須	
授 業 の 概 要				
日本の伝統文化を実習を交えながら学び、日本のおもてなしについて理解を深める。 1年次は、華道を通して、季節の草花を用いた作品作りと日本の伝統行事について学びながら、美意識とおもてなしの心を高める。				
授業終了時の到達目標				
日本の総合芸術を通じて、日本人が大切にしてきた美しい所作や立ち居振る舞い、美しい言葉づかいや感性を磨き、おもてなしの心を養う。そして、これからのグローバル社会の中でも活躍できるよう一流の美を身につけることを目指す。				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 3	華道（花伝書課題含む）①		池坊いけばなとは いけばなの基本	
4～ 6	華道（花伝書課題含む）②		花の種類、活け方を学ぶ。 季節の花を使用し、実習を行う。	
7～ 9	華道（花伝書課題含む）③		花の種類、活け方を学ぶ。 季節の花を使用し、実習を行う。	
10～ 12	華道（花伝書課題含む）④		花の種類、活け方を学ぶ。 季節の花を使用し、実習を行う。	
13～ 15	華道（花伝書課題含む）⑤		花の種類、活け方を学ぶ。 季節の花を使用し、実習を行う。	
16～ 18	華道（花伝書課題含む）⑥		花の種類、活け方を学ぶ。 季節の花を使用し、実習を行う。	
19～ 21	華道（花伝書課題含む）⑦		花の種類、活け方を学ぶ。 季節の花を使用し、実習を行う。	
22～ 24	華道（花伝書課題含む）⑧		花の種類、活け方を学ぶ。 季節の花を使用し、実習を行う。	
25～ 27	華道（花伝書課題含む）⑨		インターネット花展 作品の作成	
28～ 30	華道（花伝書課題含む）⑩		インターネット花展 作品の作成	

回	テ　　マ	内　　　　容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
	・教科書『はじめるいけばな　学校華道』 ・花鋏 ・花袋 ・花材 ・花伝書作成（筆記用具、色鉛筆など）	課題・レポート 出席率 授業態度	70.0% 15.0% 15.0%	・出席率、授業態度、課題・作品の出来栄で評価する ・評価項目に小テストの記載がある科目は中間試験とする。 ・出席率90％未満の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。 ・マナーは一朝一夕で身につくものではない為、日ごろから身だしなみや言葉遣い、礼儀作法に気を配ること。

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
伝承美学		トータルビューティ学科／2年	2025／通年	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
50分	30回	2単位（30時間）	必須	
授 業 の 概 要				
日本の伝統文化である実習を交えながら学び、日本のおもてなしについて理解を深める。 2年次では、茶道を通して、茶盆点点法を学び、日本人としての美しい所作やマナー、おもてなしの文化について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
日本の総合芸術を通じて、日本人が大切にしてきた美しい所作や立ち居振る舞い、美しい言葉づかいや感性を磨き、おもてなしの心を養う。そして、これからのグローバル社会の中でも活躍できるよう、一流の美を身につけることを目指す。				
回	テ ー マ	内 容		
1～ 3	茶道①	茶道の歴史、遠州流について 袱紗（帛紗）セット説明、抹茶・和菓子の説明、挨拶の仕方		
4～ 6	茶道②	茶会について 茶室、立ち振る舞い、割稽古（コキブクサ、タタミブクサ）		
7～ 9	茶道③	道具の扱い方、お運び グループワーク（亭主側、お客さま側でそれぞれお茶を点てる）		
10～ 12	茶道④	お茶の効果 茶盆点の稽古		
13～ 15	茶道⑤	お点法 濃茶、薄茶について		
16～ 18	茶道⑥	お客様のマナーについて 茶盆点の稽古		
19～ 21	茶道⑦	茶盆点の稽古		
22～ 24	茶道⑧	茶盆点の稽古		
25～ 27	茶道⑨	茶盆点通し 確認テスト（授業内考査）		
28～ 30	茶道⑩	茶盆点通し 確認テスト（授業内考査）		

回	テ　　マ	内　　　　容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
	・ 袱紗 ・ 扇子 ・ 菓子切り ・ 懐紙 ・ 足袋（白い靴下）	課題・レポート	70.0%	・ 出席率、授業態度、課題・作品の出来栄で評価する
		出席率	15.0%	・ 評価項目に小テストの記載がある科目は中間試験とする。
		授業態度	15.0%	・ 出席率90%未満の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。 ・ マナーは一朝一夕で身につくものではない為、日ごろから身だしなみや言葉遣い、礼儀作法に気を配ること。